

クレシエンス島の闘争

Additional Stories

~ Episode I ~



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

『クレシエンス島の闘争 8話』
イマフチオ後の
追加ストーリーになります

(服を脱いで)「チラへ。何でも答えてあげる」

「あつ……」

思わず小さな声が漏れた。

急速に酸素を取り込み、鮮明になりつつある頭に

「おばさんが言っていた言葉が浮かんだのだ。

確かに言ってた。

散々好き勝手してくれたんだから

約束通り、何でも答えて貰おうじゃない。

「なあに?。これ以上もどすならトイレでやってくれる?」

女にしては低く、よくとおる声。

不快そうに眉をひそめながらも、

どこか嗜虐的な笑みを浮かべた

「おばさん」の顔が視界に入る

「……………」

もう全部出ちゃったわよ」

吐き捨てる様に言った。

内心は屈辱と恥ずかしさで、全然穏やかじゃないけど

それを態度に出すのはためらわれる。

動揺を隠す様に早口で続ける。

「そんなことより、好き勝手したんだから

次は私の質問に答えて貰うわ」

「はああ……。都合の良い頭で羨ましいわあ。

お話をしましように言っただけであげてる私に

あなた何をしたか忘れたの?」

本当に……。心底呆れたような「おばさん」の冷淡な声。

「……………」

「いきなり蹴り付けたのよ?」

怖いわあ。気に入らない事は暴力でねじ伏せる。

支配階級の傲慢さを、隠そうともしないのだから

「ちよつ、やめなさいよっ!」

そんな言い方されたら、私が悪いみたいじゃない!?」

「そんな言い方だと、貴方が悪くないみたいじゃない?」

うう……。暴れたのは悪かったかも知れないけど。

けがさせないように加減はしたし……

私にだって言い分はある。

「嫌なら別にいいのよ。無理矢理じゃ意味ないから」

冷たい声。

続けられた言い草は、私に覚悟を決めさせるのに十分だった。

「まあ、あなたの目的なんて、結局その程度って事でしょう？」

「ちよつ……まつ……ちよつとまつて……」

す、する……するから。

約束よ……その、口でしたら……」

「ええ。何でも答えてあげな」



酷い...臭い...

ううう...

うう...くさ...

ハハハ



ふふ...♥

萎えちゃったから
ひとま
— 先ず元気にして
貰えるかしら？

ズンッ

うっ...

ううう...



んもう...失礼ねえ...

というかあなたの
せいでしょう？



ほらあ...♥

あなたが出した
色んなのお汁で
汚れちゃったんだから...

さっさと
綺麗にしなさいよ

おわ

おわ

ズン

ズン

うっ...!?

うぐうぐ!!



ああ……
違ったわね……

自分からさせなきゃ
意味無いんだったわあ……

あなたのマゾ豚顔
見てるとついイジメたく
なっちゃう♥

ぐっ!
だっ……誰が!?

んぬ……

ずっ……



うえ……!?

うえっ!!……

にがつ!?!……

ずっばい……

うええ……!?

んぬ……

んぬ……

んぬ……

んっ♥

んっぶさ♥



んもう……なんて顔……

それが奉仕
しようっていう態度?

ちゅる

ちゅる

ちゅる



すぐ終わるはら
黙ってなはいよ

んもう...
生意気だわあ...

生意気で
失礼だわあ...

ふふ...
すぐ終わるかしら...?

なんでも言葉通りに...
素直に受け取っちゃうのねえ



相手が提案した条件なんて
疑わない方がどうかしてるわ...

簡単にイかせられたから
自信持っちゃたんでしょうけど...

ふふ...
その気になれば
何時間でも
我慢出来るのよ...

「お願いだから早く行って...」って
ぴいぴい泣くことになるわねえ...

でも...許してあげない...
いつまでも生意気な
あなたが悪いわあ...



んぎっ!...うっ
いったあ...
ちよっ...!?

ほっ...歯があたっ...わあ...
そこお...だっ...めえっ!!

ちよっ!!

ちよっ!!

ちよっ!!

ちよっ!!

ちよっ!!
入ってるうっ!?...舌あっ!
入ってきさやっ...めえっ!!

ちよっ!!



んおっツツ!!
んひっ!!

んおっツツ!!



んぎっ!!

んぎっ!!

んぎっ!!

んぎっ!!

んぎっ!!

んぎっ!!

んぎっ!!

んぎっ!!

んっ!!
んひいっ!!

んぎっ!!

いっ!!...きっ!!...
きもっちいいわあッ!!



イッくっ!!
イっっちゃう!!
射精したからイクってえ...
な...に...それえ...っ
♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥!!!

か...からだ...
ペニスがあ...
勘違いしてるう?♥♥♥...



そっ...んなっ...
ちがっ!!...

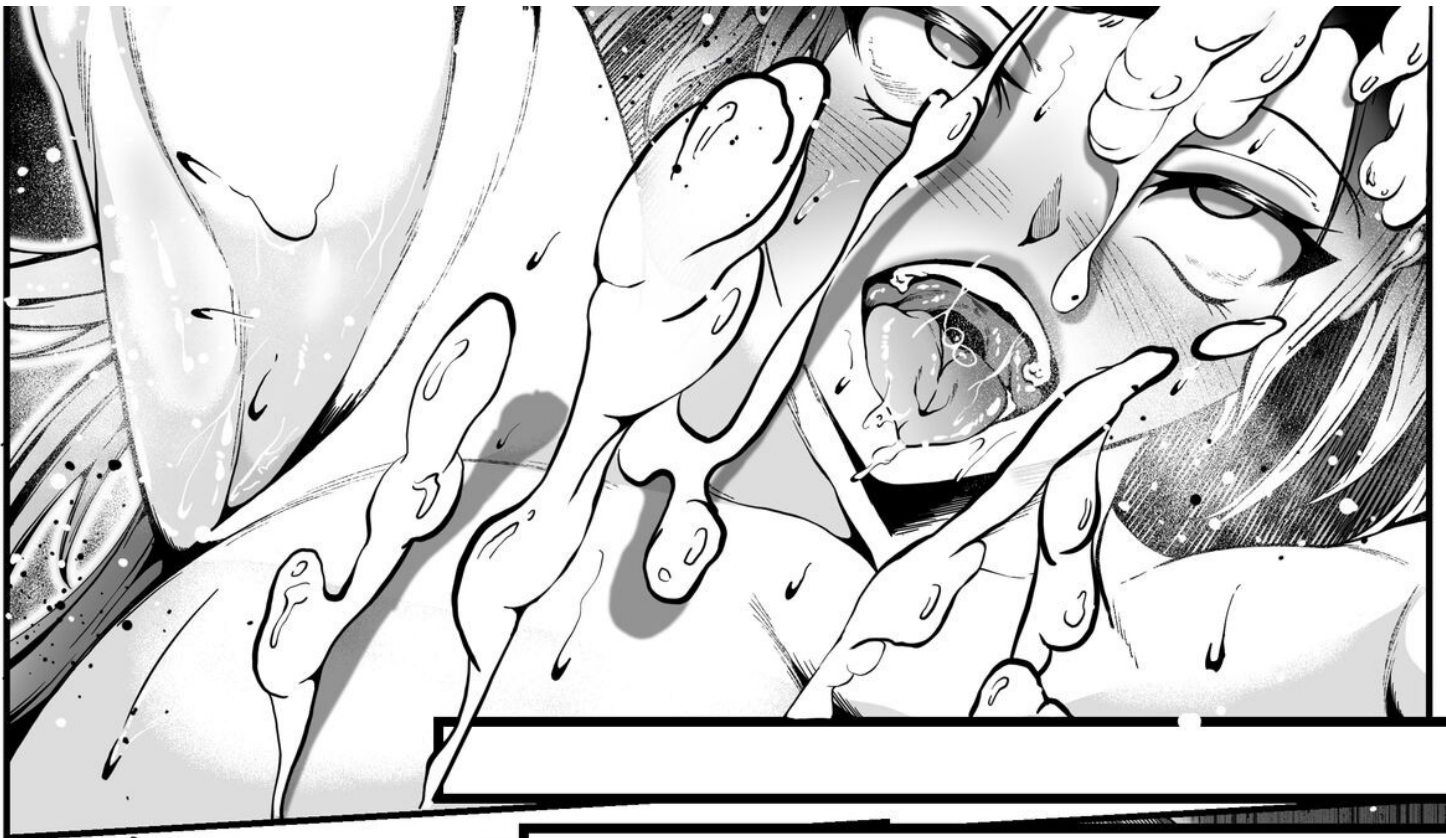
いっ...
イった訳じゃ
ないのよ...



イッくっ!!
イっっちゃう!!
♥♥

イッくっ!!
イっっちゃう!!
♥♥

ヒク
ヒク
ヒク



そんなの
貴方次第じゃないっ!?

ツっ!?!

きつたないわねっ!!

貴方がそのつもりなら
もう容赦しないんだからっ!?



んっ!

ふふ...♥
この程度で
音を上げるとでも...?

んっ!

私が満足するまで
終わらないのよ?



...じゃあ...
さっさとソレ仕舞ってくれる?

話の続きを
しましょ?

Continuing To Next...

「……続けなつらよ」

腰に手を当てベッドの上に立ち、

ふんぞり返るフタナリおばさん。

いや応なく眼前にソレが晒される。

目を背けたい思いに耐えながらソレ越して

おばさんの顔を睨みつける。

命令口調が腹立たしい。何様よ？

口ですれば答えるって言ったクセに……。

自分の言った言葉にくらい責任持ちなさいよっ！

「もっつ!!ちゃんと口でしたでしょっ!!? イっちゃったんだから

私の質問に答えなさいよっ!!? 嘔吐きっ!!」

胸の中で渦巻く不満が思わず口をついた。

「なあにっ? それっ?」

スッキリしたら話してあげるって言ったのよ……。

スッキリした様に見えるかしらっ?」

ビクンビクン♥♥

大量に……2回も射精したにもかかわらず

おばさんのソレはお入そに付くくくうららぎんぎんに

そそり立って物欲しそうにビクビクと震えている。

「っっ……っっ……」

「きたないだの、嘔吐きだの……言いたい放題ねえ?

あなた何か勘違いしてるんじゃないかしらっ?

あなた程度……力づくでどうとでも出来るのよ?

なのに……その可愛げの無い態度はどっしたのかしらっ?」

悔しいけど力の差は理解している。

反抗的な振る舞いが利口じゃないってことも……それでも。

「……わ、私は……暴力に屈したりは……」

それでも、この人の言いなりになるのは抵抗がある。

理屈じゃない。本能が警鐘を鳴らす。

暴力、権力、そんなものとは無関係に

この人……なにか……すごく危ない……。

「暴力に屈しないって……。頭悪そうね? それ……。

まあいいんじゃない? あたなは、それで。

そうじゃなくて……私に聞きたいことがあるんでしょっ?

無理矢理口を開かせる力が無いなら

人に物を尋ねる態度というものがあると思うのだけれど?」

「っっ……」

その通りだけど素直に頭を下げて聞いても、

あなた絶体答えないじゃないっ!?

私の心中などお構いなしに、おばさんは続ける。

「別に私はね

あなた自身にはそれほど興味が無いのよ。

ちよつと面白そつなおもちゃ程度ってへらいかしら。

少し遊んであげても

良いわよって言ってるだけ……。

嫌なら無理にしなくても良いのよ?」

私が拒めないことを、分かっているクセに……。

ほんと、質たちが悪いわね。

「分かったわよ。

続ければいいんでしょ?」

きゅっ、と口を結び覚悟を決める。

何を言っても結局この人は私に奉仕させたいんだ。

「続けるけど……。

すつきりとか、満足とか……抽象的なんだけど?

要は起たたなくなるまですれば良いの?」

キツチリ言質を取つとかなきゃ

萎えてもまだ満足してないなんて、

難癖付けられたらたまらない。

「んん? そうね……じゃあ、1回で良いわ!」

出し抜けに放はなたれた言葉が理解できないでいる

私におばさんが続ける。

「あと1回、私を射精させたら

ご奉仕は終わりにするし、質問にも答えるわ」

いっかいつ……1回?。」

あと1回イかせたら終わり? そんなの……。

「んん♥簡単すぢね?」

んふう♥♥実は「レ能力で生やしてるのね」

いきり立ったソレを自慢げに突き付けてくる。

少しは恥じらいなさいよっ!」

「とりあえず私を馬鹿にしているのは分かったわ。

それで?」

ほんとハラたつ。何が実は………よっ!

当たり前じゃないっ!!

それ以外どうやってそんなモノ急に生やせるのよ。

「ふふっ♥望んで付けてるのだから

わりと制御出来るのよね………。

勃起とか射精とかを、ね♥」

女の私じゃよく分からないけど

2回、精を放^{はな}つて尚硬さを失わないソレが

普通の男の人のモノとは違うことは分かる。

「結局何?」

いくかどうかは貴方次第ってこと?

そんな人に奉仕して何の意味があるの?」

「ふふ………♥♥

あなたの足りない頭でもすぐに分かるわ♥

口だけじゃなくて思いつく限り

手でもおっぱいでも、どこを使っても良いわ。

ああ………♥♥

おまんこはダメよ♥♥

そっちは後でたっぷりかわいがってあげるから♥」

ああ………そうだったわね。

DSだったわね、このフタナリおばさん。

なるほど、確かに私はおもちゃだ。

追い込んで、追い詰めて、壊れるところを

眺めて楽しむための遊び道具………。

「ふふ………あはあ♥♥

苦しくて、しらなくて………

お願いだから、もう射精^だしてええっつて

ピィピィ泣きながら土下座するところを

見せてちょうだあいつっ♥♥

あっあく♪ 何だったかしら♥

『もう容赦しないっ!!』だったかしらあ?

いいわあ♥♥

全力で来なさいよおっ!!!♥♥」

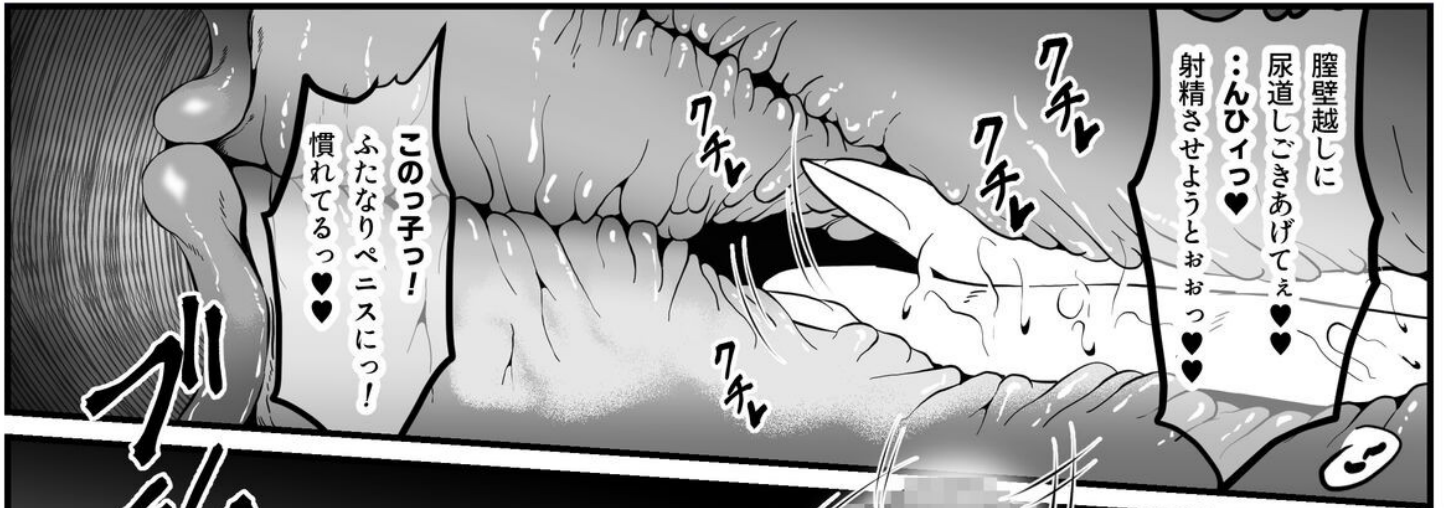


なん...なの...?
この娘...

うます
巧過ぎるのだけど...?

何で私の方が
つらくなってるのよ...





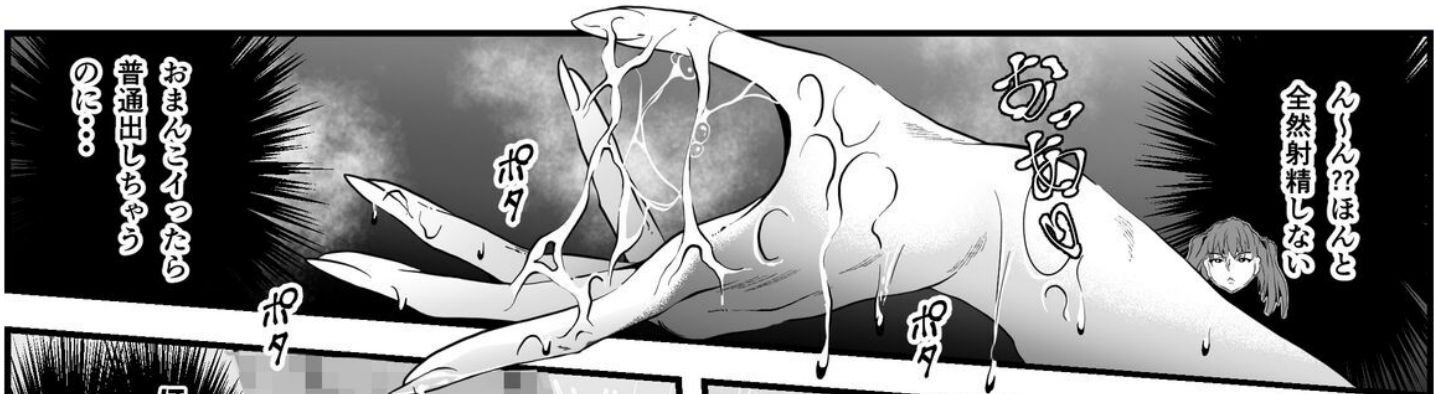
膣壁越しに
尿道しごきあげてえ♡
：んひっ♡
射精させようとおおっ♡♡♡

このっチっ!
ふたなりペニスにっ!
慣れてるっ♡♡



ふたなりペニスからあっ!!!♡
ザーメン絞り取るのに
慣れてるうらうらっ♡♡♡

だめえっっ!イクうらうらっ!!!♡♡♡
イクわっ♡イクっ♡イクイクッ♡♡♡
イクくうらうらっ♡♡♡♡♡♡♡♡



んん??ほんと
全然射精しない

おっおっ

ポタ

ポタ

おまんこイッたら
普通出しちゃう
のよ...



ズキッ

ズキッ

ほんこインナキッ

何があと一回

射精したら終わりよ!!



ズキッ

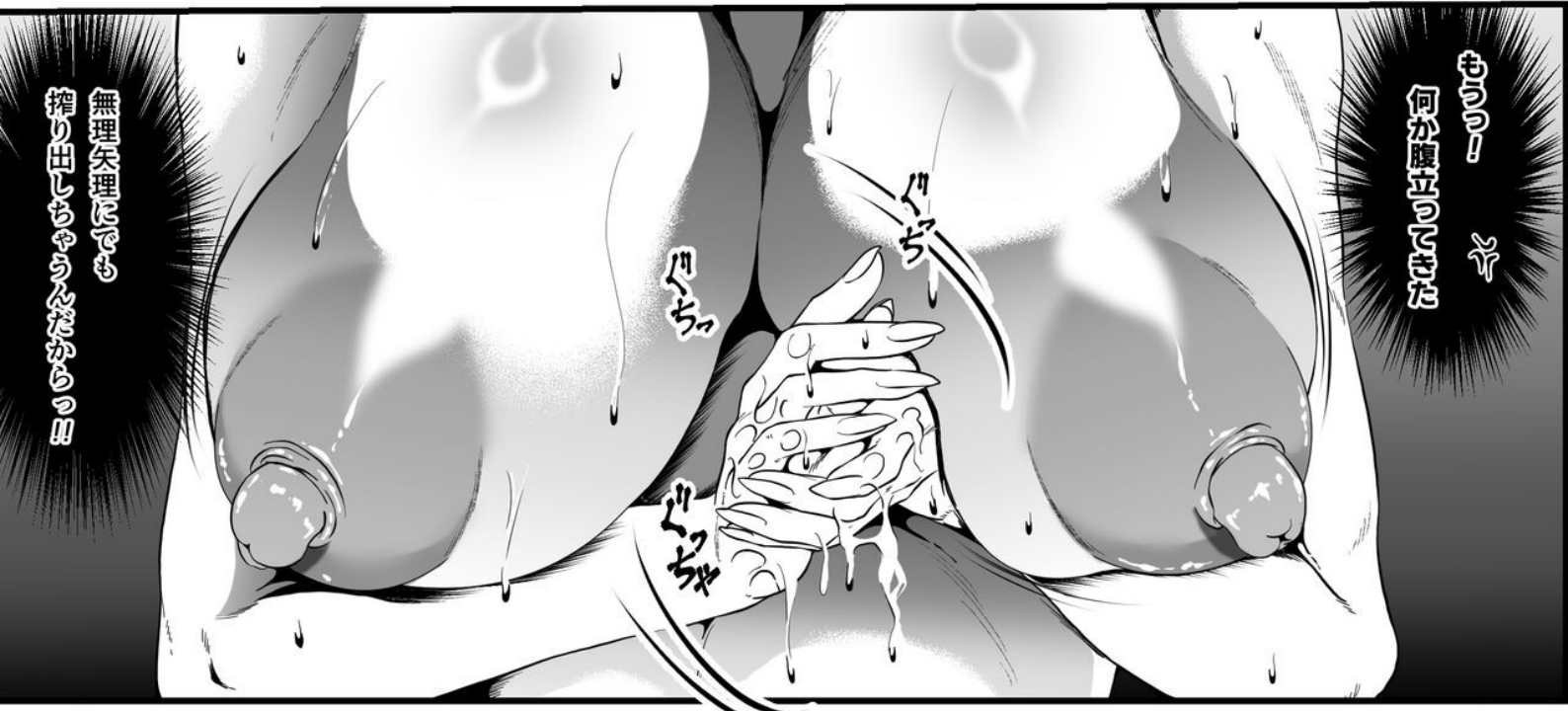
とっ

いったっ

イッても射精は
しないのよ...

ズキッ

射精しても射精さないうも本人の
意志で自由でいられるなら...



せーっ
何が腹立ってるんだ

ズキッ

ズキッ

無理矢理にでも
搾り出してちゃうんだから!!



だっからっ!!
あなたがおかしいのよっ!?

そんな簡単にイかないし...
いったところで
射精ださないように
するなんて訳ない事だわ

それをっ!? こんな短時間に
何度もっ連続でえっ!!

んっっ!!

んあっ!!
んいっ!!



だめっ!

そっっ!!
SSSS!!

まって!

イクら!!
イっちゃっ!!

おまんこっ!!
イクらっ!!



まつツツ!?!
いってるっ!! おまんこっ
いってるかあっ!!

ダメっ!! 今そっちもイったらあ
だめっ!! イクっ!! イくらっ!!
ペニスもイクらっ!!





おちんぼ
ビクンッビクンッって♡

コレ
さっきからずっと
イキっぱなしでしょ?♡

あはっ♡
すっごい熱くて
がちがちの勃起チンポ♡
射精したい射精したいって
脈打ってる♡♡

ビクンッ

くっくっ♡
くっくっ♡
くっくっ♡

ビクンッ

ビクンッ



我慢して我慢して
溜まりに溜まったザーメン
どぴゅどぴゅうっ♡♡ってしちゃう?

ギンギンのイきまくり
勃起チンポから
どろどろの臭いチンポ汁
吹き出しちゃう?♡♡

はっあぁ♡♡すっごっ
おチンポの先っちょよばっくり開いて
発射準備してるうっ♡♡

あはっ♡♡
イクっ?イクのね?
射精しちゃうのねっ!

射精して!射精して!!♡射精してえっ♡♡
ぶりっぶりの特濃ザーメン
臭い雌ちゃんほから射精してええっ♡♡♡

射精るっ♡!!
射精るっ♡!!

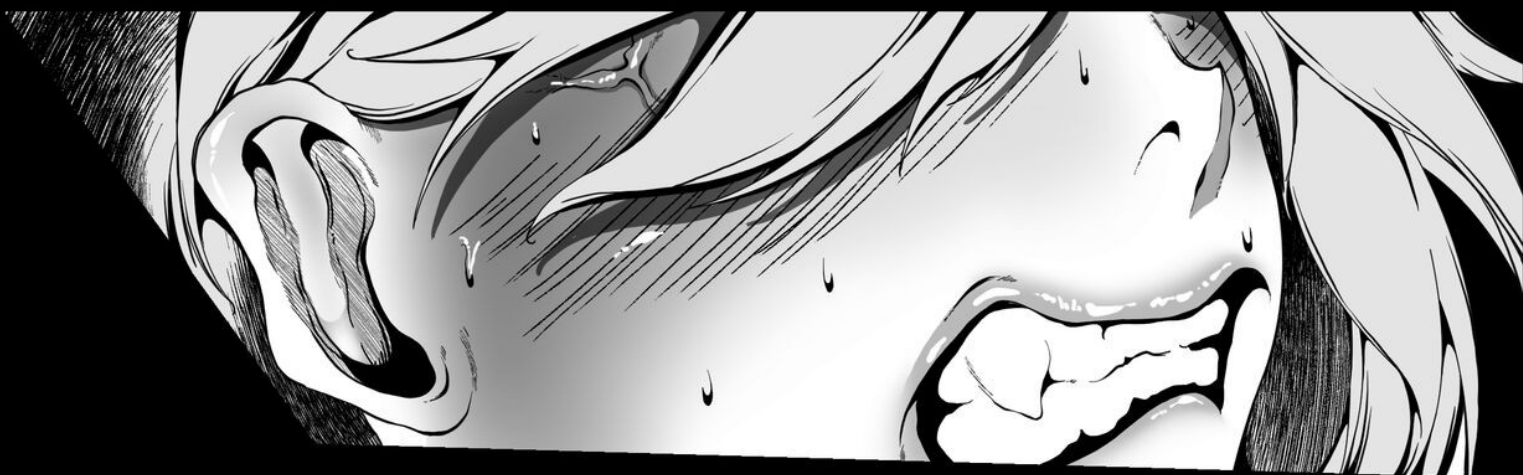
おっ♡!
おっ♡!

くっくっ♡
くっくっ♡

くっくっ♡
くっくっ♡

て...
て...

射^だ精さなのよね？





「射精は制御出来る」んだから

ねっ……おはなこ



盛り上げてくれないかなっ……

ムッ
ムッ

ムッ
ムッ

お嬢……



いいわ……フツフツ
付き合っただけ……ヒュッ

あなたが……泣きながら土下座……
するまで……フツラウツ……

ヒュッ



ムッ
ムッ

何が何でも射精させる
……

……
♡♡♡

がっおはな

おはな

ムッ

ムッ



2017



おお
あ

はひら...
ふっ

ふっ
ふっ...ふっ

ふっ
ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

おお
あ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

言い訳
あるなら聞くけど...

あんまり見苦しい真似しないで
素直に負けを
認めた方が良くんじゃない？

ムクムク

ヒク

Continue
To Main Story 〇〇